

門田朴齋

もんでん・ぼくさい

福山藩儒官、藩校誠之館教授

経歴

生: 寛政9年(1797年)2月18日 備後国安那郡百谷村(現福山市駅家町百谷)生まれ

没: 明治6年(1873年)1月11日卒去、享年77歳、西法成寺村小向山に神葬される

寛政10年(1798年)	2歳	門田家の養子となる
文化5年(1808年)	12歳	廉塾に入門
文政3年(1820年)1月	24歳	菅茶山の養子となる
文政10年(1827年)7月	31歳	菅茶山の養子から元の門田に戻る
文政11年(1828年)8月	32歳	上京し、頼山陽塾に入門する
文政12年(1829年)9月	33歳	福山藩儒官
文政12年(1829年)12月	33歳	出府、藩侍講(正弘公の教育係)
嘉永6年(1853年)	57歳	ペリー来航に際して攘夷を説いた
嘉永6年(1853年)10月15日	57歳	福山藩儒解雇
嘉永7年(1854年)5月	58歳	帰郷
文久元年(1861年)	65歳	正方に召し出され侍講
文久3年(1863年)	67歳	藩校誠之館文学教授、学政綜理兼侍講
明治元年(1868年)8月	72歳	致仕(辞職)、隠居

生い立ちと学業、業績

生い立ちと教育

門田朴齋、備後国安那郡百谷(ももだに)村、山手八右衛門重武の男子(第3子)として、寛政9年(1797年)2月18日に生まれた。幼名は小三郎・正三郎・一時東作・のち字行。字は堯佐(よしすけ)・堯助。諱は惟隣・重鄰(しげちか)あるいは鄰。号ははじめ百溪・緑峯・千々齋、のち朴齋・樸齋・隠居して朴翁、通称は字の堯佐をもってした。

その後幼くして父を失って、母の実家である安那郡法成寺村の大庄屋門田儀右衛門政周(まさかね)に養われて門田姓を称した。

文化5年(1808年)、12歳で菅茶山の廉塾に入り、茶山に愛されて、文政3年1月にはその養子となり菅蕉ムム(かん・しょうりん)を名乗った。しかし7年後の文政10年(1827年)7月、門田政周が没してその家を継ぐため旧姓門田に復した。翌文政11年(1828年)8月、茶山の没後、東作と名乗って上京、頼山陽の山陽塾に入った。従学すること2年。

業績

文政12年(1829年)9月、第6代藩主・阿部正寧に儒官として採用され、同文政12年(1829年)年12月江戸に出府して、江戸丸山邸においてその侍講をつとめ、幼時の阿部正弘の教育にあたった。阿部正寧、阿部正弘、阿部正教、阿部正方、阿部正桓と五代の藩主に仕え学を講じた。

嘉永6年(1853年)ペリー来航に際しては、攘夷(幕末の外国人排斥運動)を説いたため、慷慨の士が四方から踵を接して来訪し、藤田東湖、梁川星巖などとは最も親交があった。上書して幕政を批判したため、正弘公に忌避されて同嘉永6年(1853年)10月15日解職され、ついで翌嘉永7年(1854年)5月帰郷の命を受け福山に帰った。彼の在郷蟄居中も、周防の僧月性、長門の久坂玄瑞など、多くの志士の来訪があり、共に時事を論じて攘夷説を鼓吹している。

その後文久3年(1863年)、第9代藩主・阿部正方に再び登用され、学政綜理兼侍講として、30余年間正方補佐につとめたが、明治元年(1868年)8月致仕(辞職)し、隠居した。

明治6年(1873年)1月11日卒去。享年77歳。西法成寺村小向山に神葬された。墓誌は小野湖山の撰。

『朴斎詩鈔(2編6巻)』、『葦北詩鈔(4巻)』などの詩集があり、関連書として『備後史談(第8巻)』に浜本鶴賓「朴斎門田堯佐伝」がある。

門田朴斎の家系

続柄	名	幼名	通称	字	号	注
長男	もんでん・なおたろう 門田直太郎	—	—	—	—	夭死
次男	もんでん・しげなが 門田重長	仲松、保二	二郎太	重長	杉東、温斎	福山藩儒、藩校誠之館教授、誠之館中学校教諭
三男	手嶋久質	叔松、久吉	升三	久質	—	福山藩士・手嶋七兵衛の養子となる、誠之館教授、能書家
四男	もんでん・しげとう 門田重棟	季松	季資	重棟	—	分家独立、福山藩士
五男	もんでん・くにかた 門田晉賢	五松	梅五郎	柳汀	—	神辺菅三郎の養子となる、廉塾の経営

六男	もんでん・しんろく 門田新六	菊松	重魯	新六	—	分家、私立門田高等女学校を創設
----	-------------------	----	----	----	---	-----------------

誠之館所蔵品・展示品				
管理No.	氏名	名称	制作／発行	日付
00039	門田朴斎 書	七言律詩「聞就仙家」	—	弘化4年(1847年)
00040	門田朴斎 書	七言律詩二首「大瀛・扶桑」	—	嘉永6年(1853年)
t0910	門田朴斎 作	七言絶句「紙鳶(いかのぼり)」	—	万延元年(1860年)
t0840	門田朴斎 書	七言律詩「中秋登對潮樓 二首之一」	—	文久2年(1862年)
05345	門田朴斎 書	七言絶句「題采茶図(菟道川頭)」	—	慶応2年(1866年)ごろ
05349	門田朴斎 書	七言絶句「燕子花(識個前身)」	—	慶応2年(1866年)ごろ
05346	門田朴斎 書	七言絶句「湖上騎驢」	—	明治元年(1868年)～6年(1873年)ごろか
05347	門田朴斎 書	五言絶句「晚帰(夕陽沈遠)」	—	明治2年(1869年)
05348	門田朴斎 書	七言絶句「鄰樹一株」	—	明治元年(1868年)～6年(1873年)ごろか
05350	門田朴斎 書	五言絶句「幾人臨大壑」	—	明治元年(1868年)～6年(1873年)ごろか
05344	門田朴斎 書	一行書「論語(人無遠慮必有近憂)」	—	明治元年(1868年)～6年(1873年)
00100	門田朴斎 書	屏風(崩し)「鶏狗猪羊牛馬人」	—	—
07006	門田朴斎 書	七言絶句「藤陰翁話」	—	—
t0260	門田朴斎 書	七言絶句「雨足溝渠」	—	—
t0620	門田朴斎 書	七言絶句「唐明皇(一曲霓裳)」	—	—
00258	門田朴斎 著	『朴斎先生詩鈔(初編)』	—	慶応3年(1867年)
00259	門田朴斎 著	『朴斎先生詩鈔(二編)』	—	明治元年(1868年)
06754	門田朴斎 著	『朴斎葦北(一)』(コピー)	—	明治4年(1871年)
06755	門田朴斎 著	『朴斎葦北(二)』(コピー)	—	明治4年(1871年)
06756	門田朴斎 著	『朴斎葦北(三)』(コピー・筆写本)	—	—
06736	門田朴斎 著	『門田朴斎「朴斎先生詩鈔詳解初編」』	吉備人出版	平成23年(2011年)
06737	門田朴斎 著	『門田朴斎「朴斎先生詩鈔詳解二編」』	吉備人出版	平成23年(2011年)
00037	頼復 差出	〔門田堯佐・江木鱈水宛書状〕	—	—

05505	神辺郷土史研究会 編	『菅茶山とその弟子たち－神辺の歴史と文化 第4号－』	神辺郷土史研究会	昭和51年(1976年)
05558	松本健一 著	『地の記憶をあるく 盛岡・山陽道篇』	中央公論新社	平成14年(2002年)
03138	福山城博物館 編	『茶山・朴斎・鱒水 福山藩の儒者たち』	福山城博物館	平成15年(2003年)
04729	西原千代 著	「菅茶山と門田朴斎」 『中国学論集(第44号)より』	安田女子大学中国文学研究会	平成19年(2007年)
07291	西原千代 著	『菅茶山』	白帝社	平成22年(2010年)
06906	見延典子 著	『敗れざる幕末(小説:福山藩儒者・関藤藤陰)』	徳間書店	平成24年(2012年)
07290	菅茶山記念館 編	『菅茶山記念館第23回特別展 門田朴斎展』	菅茶山記念館	平成27年(2015年)

出典1:『誠之館百三十年史(上巻)』、20・23・34・78・79・107・139・350・741 頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典2:『誠之館記念館所蔵品図録』、64頁、福山誠之館同窓会編刊、平成15年5月23日

出典3:『福山藩の教育と沿革史』、164頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、平成11年8月20日

出典4:『備後先覚者名鑑(郷土を創った人々)』、25頁、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和35年6月

出典5:『福山藩の文人誌』、89頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会刊、1988年7月27日

出典6:『郷賢録』、10頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典7:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、93頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典8:『明治維新人名辞典』、1013頁、日本歴史学会編、吉川弘文館刊、昭和56年9月10日

出典9:『今昔物語 福山の歴史』、213頁、村上正名著、歴史図書社刊、昭和53年11月20日

出典10:『福山の今昔』、166頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

出典11:『門田朴斎「朴斎先生詩鈔」詳解初編』、門田朴斎著、門田正義注釈、門田誠一郎編、吉備人出版刊、2011年7月12日

出典12:『門田朴斎「朴斎先生詩鈔」詳解二編』、門田朴斎著、門田正義注釈、門田誠一郎編、吉備人出版刊、2011年7月12日

関連情報1:『備後人物風土記－歴史をつくった人々－』、342頁、村上正名著、歴史図書社刊、昭和52年10月31日

関連資料2:『備後史談(第8巻・第1号)』、「熱血慷慨詩人 朴斎門田堯佐伝」、濱本鶴賓著、備後郷土史会編刊、昭和7年1月15日・・・より連載

2005年2月16日更新:本文●2005年4月1日更新:出典●2006年2月3日更新:所蔵品●2006年3月16日更新:本文・所蔵品●2006年11月13日更新:所蔵品●2007年1月24日更新:本文・出典●2007年10月4日更新:関連情報●2008年8月14日更新:本文・関連情報削除●2008年11月14日更新:経歴・本文・出典●2008年11月17日更新:誠之館所蔵品●2008年12月1日更新:関連情報●2008年12月8日更新:本文・誠之館所蔵品●2009年3月19日更新:誠之館所蔵品●2009年3月23日更新:誠之館所蔵品●2009年3月27日更新:誠之館所蔵品●2009年3月30日更新:誠之館所蔵品●2009年10月8日更新:誠之館所蔵品●2009年10月13日更新:関連資料●2010年6月2日更新:誠之館所蔵品●2010年12月10日更新:本文・誠之館所蔵品展示品●2011年1月13日更新:誠之館所蔵品展示品●2011年7月26日更新:本文・誠之館所蔵品展示品・出典●2011年8月5日更新:誠之館所蔵品展示品●2012年5月31日更新:誠之館所蔵品展示品●2012年6月18日更新:誠之館所蔵品展示品●2012年6月19日更新:誠之館所蔵品展示品●2012年6月22日更新:本文●2014年7月15日更新:誠之館所蔵品展示品●2016年3月9日更新:誠之館所蔵品展示品●